

平成 28 年度
横浜市立高等学校
自己評価書

横浜市立 南 高等学校

<学校情報>

1 課程・学科 全日制 普通科

2 学校長 三浦 昌彦 (平成 29 年 4 月 1 日現在 在職 2 年目)

3 学校教育目標

(1) 教育理念

知性・自主自立・創造

(2) 教育目標

○ 学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成

○ 自ら考え、自ら行動する力の育成

○ 未来を切り拓く力の育成

4 教育方針

○ 歴史の中で蓄積してきた人類の叡智を学び取る

○ グローバル化が進む現代社会で社会的自立の力を身につける

○ 人類に課せられた諸課題を解決し自らの未来を切り拓く

5 教職員数 (平成 28 年 12 月 1 日現在)

学校長 1 校長代理 1 副校長 2 事務長 1
教諭 50 (男 29、女 21) 養護教諭 2
実習助手 2 事務職員 3 技能職員 4
A E T 2 非常勤講師 7 管理員 0

6 生徒在籍数 (平成 28 年 12 月 1 日現在)

| 年次 (学年) | 学級数 | 男子 | 女子 | 合計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 5 | 95 | 98 | 193 |
| 2 | 5 | 95 | 103 | 198 |
| 3 | 5 | 115 | 81 | 196 |
| 4 | - | - | - | - |
| 合計 | 15 | 305 | 282 | 587 |

7 回収率

| | | 依頼数 | 回答数 | 回収率 |
|-----|----|-----|-----|---------|
| 教職員 | | 60 | 60 | 100.0 % |
| 生徒 | 1年 | 193 | 187 | 96.9 % |
| | 2年 | 196 | 194 | 99.0 % |
| | 3年 | 196 | 184 | 93.9 % |
| | 4年 | | | . % |
| | 合計 | 585 | 565 | 96.6 % |
| 保護者 | | 585 | 485 | 82.9 % |

8 自己評価実施日

| | |
|-----|-----------------------------|
| 教職員 | 平成28年 11月 22日～平成28年 12月 5日 |
| 生徒 | 平成28年 11月 22日～平成28年 11月 24日 |
| 保護者 | 平成28年 11月 24日～平成28年 12月 5日 |
| 地域 | 平成28年 12月 1日～平成28年 12月 22日 |

9 集計・分析期間

| |
|------------------------------------|
| 平成 28 年 11 月 25 日～平成 29 年 1 月 31 日 |
|------------------------------------|

10 自己評価書の公表方法・時期

平成29年5月下旬までに、ホームページ上で公表する。

<自己評価>

1 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況

■魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員1～13、生徒1～8、保護者1～6)

| | |
|----|---|
| 取組 | <p>① 次代を担うグローバル人材の育成 平成27年度文科省よりスーパーグローバルハイスクールの指定を受け、総合的な学習の時間を活用した教科横断型の探究学習（TRY&ACT）を行っている。 〔課題研究、企業・大学講師による講演・ワークショップ、湘南国際村での宿泊研修 等〕 また、国内外での活動を通し、課題研究の深化、国際交流活動の推進、英語力の向上に取り組んだ。また、本校は横浜市教育委員会の海外大学進学支援プログラム（ATOP）の拠点校として、生徒の海外大学への進学支援を行っている。 〔シンガポール海外研修、シンガポール・ベトナム海外イマージョン研修、国際大学（新潟）研修・国際教養大学（秋田）研修、カナダ姉妹校交流 等〕</p> <p>② 特色ある高校づくり 中高一貫教育校として6年間を見通したカリキュラムの作成、中高の教職員の協働による計画的で継続的な教育活動に取り組んでいる。 横浜市より指定された進学指導重点校として、教員の授業力や進学指導力の向上に取り組んでおり、平成28年度は外部模擬試験の再考、長期休業期間中の補講の充実、学習環境の整備を行った。 〔研究授業、模擬試験の実施、模試解説（生徒対象）、模試分析会（教員対象）、補講・補習の実施、図書館開放（自習用） 等〕</p> <p>③ 生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実 大学・企業・専門機関等と連携した教育に取り組み、平素の授業以外にも専門的・高度な学習の機会を提供している。 〔TRY&ACT、高大連携授業、インターンシップ 等〕 学力向上、進路希望実現（②に同じ） 特別活動を通じての問題解決力、コミュニケーション力の向上を目指し、自主自立の精神の涵養に取り組んでいる。 〔特別活動（学校行事・生徒会行事・部活動 等）〕</p> |
|----|---|

| | |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">成 果</p> | <p>教育活動全般について、生徒への設問1～8すべて「そう思う・ややそう思う」を合わせた肯定的な回答（以下「肯定的な回答」）が合計70%以上である。（肯定的な回答70%を、目標値とする）保護者の設問1～6に関しては、設問2「南高校の教育課程は進路実現に適したものになっている」への肯定的な回答が68.9%でやや低いものの、他の設問に対して、肯定的な回答が目標値70%を超えている。</p> <p>①「グローバル人材の育成」に関して、アンケート項目には該当するものがないため具体的な数値には表れないが、学年・学級保護者会等での保護者からの評価は高い。また、平成28年11月と平成29年1月に行われた「SGH研究発表会」では学習の成果を発表し、校内外の出席者から高い評価を得た。</p> <p>②「特色ある高校づくり」に関して、生徒への設問6「進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している」の肯定的な回答が86.0%、保護者への設問6「希望進路に合った情報の提供があり、適切な指導が行われている」の肯定的な回答が78.8%である。生徒による授業評価に関しても、概ねどの教科科目においても、高い評価を得ている。</p> <p>③「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」に関して、上記②の成果のほか、特別活動への評価として、生徒への設問2「ホームルームで良好な人間関係を築いている」に89.5%、保護者への設問3「お子さんはホームルームで良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている」に89.5%とかなり高い評価を得ている。教職員への設問7「生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している」でも肯定的な回答が76.8%で、特別活動を重視する教育目標の達成に向け適切な指導が行われている。</p> |
| <p style="text-align: center;">課 題</p> | <p>① 特色ある高校づくり」において教育課程に関し、生徒への設問1「希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている」に肯定的な回答が79.9%であるのに対し、保護者への設問2「南高校の教育課程は進路実現に適したものになっている」の肯定的な回答が68.9%で、目標値の70%をやや下回っている。保護者へ、学校の取組を効果的に伝えることが課題である</p> <p>教科指導に関して、教職員への設問4「学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している」が平成27年度より約3.5ポイント、設問5「私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている」が同じく4ポイント、設問6「観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている」が同じく約10ポイント下がっている。今後はより一層教職員全体で研鑽を行い、本校の授業力向上に取り組むことが必要と考える。</p> <p>②「特別活動」において、ホームルーム活動に関する教職員への設問8「生徒が人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送ることができるよう基礎的な生活集団の形成に資するホームルーム経営を行うことができている」では肯定的な回答が75.0%と4ポイント上昇している。</p> <p>学年団に経験の浅い担任が増え、学年団としてより教職員の意思疎通を図り、指導力の向上が図られている結果であると考え、今後もさらに生徒への指導力の向上に努める必要がある。</p> |
| <p style="text-align: center;">改善策</p> | <p>① 学校ホームページや学級通信などを活用し、本校の教科指導等に関する具体的取組について、適切に広報する。</p> <p>② 教科ごとに校内研究授業の実施や、体系的な学習指導のあり方などについての研究など、南高校附属中学校とも適切に連携しながら取り組むことにより、授業力向上を実現する。</p> <p>③ SGHに関する取組をPDCAサイクルにより改善し、適切な授業計画を実現することにより、生徒に身につけさせる能力の一層の伸長を実現する。</p> <p>④ 比較的経験の浅い教員に対し、教科指導のみならず、適切なホームルーム経営や生徒指導の方法について組織的に人材育成に取り組む。</p> |

2 教育活動の状況

■保健指導・環境美化についての状況

(関連アンケート番号:教職員-11, 12 生徒-7, 8、保護者-7, 8、地域-7、生徒授業評価-9、教職員の評価-11, 12)

| | |
|-----|--|
| 取組 | <p>① 保健室だよりの発行、体調不調による保健室の来室生徒保護者への連絡の徹底をした。心身の健康問題早期発見・早期対応の為の支援の徹底に努めた。</p> <p>② 環境美化委員と連携し、生徒の意識を高めるために取り組んだ。</p> |
| 成果 | <p>① 教職員の設問 11「学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している」に肯定的な回答が85.7%、生徒の設問7「南高校生徒の健康管理について適切な指導が行われている」への肯定的な回答は、78.6%と平成27年度より、2.2%上がっており、良好な評価を得ている。また平成27年度は保護者の設問7「生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている」への肯定的な回答が61.5%とやや低い数値となっていたが、平成28年度は77.4%と大幅に上がった結果となった。</p> <p>② 保護者の設問8「校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている」の肯定的な回答が平成27年度は85.1%であったが、89.6%と4.5%上がった。生徒の設問8「南高校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる」の肯定的な回答が80.4%と平成27年度よりは5%下がっている。</p> |
| 課題 | <p>① 教職員の設問12「資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる」の肯定的な回答が平成27年度は82.5%と高い評価であったが、平成28年度は69.6%と12.9%と下がっている評価であり、職場での意見等を聞き、今後の課題として考えていく。</p> <p>② 保護者の設問7について、「わからない」との回答が18%とやや高い数字であった。平成27年度同様に健康に関する実践を保護者にも伝え理解を深めることが課題である。</p> <p>③ ゴミの分別など環境の美化、教育環境の管理に努めていくことが課題である。</p> |
| 改善策 | <p>① 生徒の健康に関する意識向上を目的として、ホームルーム指導や教科指導等を活用して指導を行う。</p> <p>② 日常の清掃活動等を通じ、環境美化に関する生徒の意識向上を図り、資源の有効活用やリサイクル等についての意識を醸成する。</p> |

■進路指導に関する状況

(関連アンケート番号：教職員-10、生徒-6、保護者-1,6)

| | |
|-----|--|
| 取組 | <p>① 進路ガイダンス、進路保護者会、三者面談を活用して、生徒や保護者に情報を提供し、生徒個々に沿った進路について、家庭や本人と相談する機会を多く設定した。具体的には各学年で本校教員による進路ガイダンスの他、河合塾や駿台の講師による進路説明会を実施した。また、三者面談において模擬試験のデータを活用した受験指導・学習指導の徹底を図った。</p> <p>② 夏期講習、冬期講習などの各種講習やサテライト講座、センター対策トレーニングなどを実施し、生徒の学力向上を図った。</p> <p>③ 模擬試験については、2・3年生は年6回、1年生は年4回実施し、そのデータを進路相談等に活用した。</p> <p>④ キャリア教育の充実を目的として、1年生は富士通、2年生はIHIの社員の方々による社会人講演会を実施した。</p> <p>⑤ 高大連携講座を東京大学、千葉大学、横浜市立大学、早稲田大学に依頼し、生徒に大学で学ぶことの意義を幅広く考察させた。</p> |
| 成果 | <p>① 生徒からは設問6「南高校は進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している」に86%と高い評価を得た。また、生徒の進路に対する意識を高めることができた。</p> <p>② 保護者からは設問1「進学指導重点校として、模擬テストや面談の充実など適切な取り組みをしている」に78.1%、設問6の「希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている」へ78.8%と肯定的な回答が得られた。進路通信のさらなる発行を通じて理解を深めたい。</p> <p>③ 教職員からも設問10の「生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切な指導を行っている」に78.6%と肯定的な回答が得られた。</p> |
| 課題 | <p>① 保護者説明会、三者面談、進路ガイダンス、進路相談を生徒・保護者・教職員がさらに満足できる内容にするため、さらなる手段を考え、進路学習部の職員のスキルアップを図る必要がある。</p> <p>② 中高一貫教育校である強みを生かすため、中学校の教職員、保護者と連携し、進路に関する認識を共有する必要がある。</p> |
| 改善策 | <p>① 3年間一貫した進路指導を行うために各学年の必要に応じた時期に進路ガイダンス、進路保護者会や模擬試験解説会を計画的に実施する。</p> <p>② 進路学習部の職員が率先して、大学や予備校の説明会や大学入試問題分析会に参加し、学年さらには学校全体へ、適切な情報提供を行う。</p> <p>③ 生徒との進路相談活動をさらに充実させる。</p> <p>④ 中学校の教職員や保護者の方々にも模擬試験分析会や進路保護者会への参加を呼びかけ、進路に対する意識を共有し、中高一貫教育校の特色を生かす。</p> |

■特別活動・部活動の状況

(関連アンケート番号：教職員-7、生徒-3、保護者-4)

| | |
|-----|--|
| 取組 | <p>① 中高の生徒会活動が、スムーズに運営できるように早めの準備を心がけ、全体への連絡徹底を図った。</p> <p>② 部活動が活発に活動（運営）できるように部室の環境を改善した。またウエイトトレーニング場の充実を図った。</p> |
| 成果 | <p>① 教育活動等に関する設問3の生徒会活動や委員会活動を「主体的に行っている」という設問に対して生徒は、77.5%がそう思う、もしくはややそう思う回答し、平成27年度の66%より大幅に改善することができた。保護者の方々からも、教育活動等に関する設問4の「学校行事や生徒会活動は充実し積極的に参加している」に高評価（85.4%）をいただいた。</p> <p>② 限られた時間の中においても生徒たちは、計画的な活動を実現している。</p> <p>③ 委員会活動や生徒会の活動に積極的に関わり役割の責任を果たそうとする生徒が多く、主体的に活動ができています。</p> |
| 課題 | <p>① 7時間目までの授業が週に3回あり、放課後の活動時間が非常に少ないことや、中高でそろって活動する時間が限られている。そのような中で、質の高い活動内容を保ち、生徒の主体的な活動を維持していくためにも、中高での協力とさらなる連携が必要である。</p> <p>② 部活動と勉強との両立をおこなえるように工夫が必要である。</p> |
| 改善策 | <p>① 生徒会活動の年間計画を適切に立案し、活動時間を確保する。より良い中高一貫教育校の生徒会の在り方を今後も検討していく。</p> <p>② 部活動の在り方について検討していく。</p> |

■生徒指導・教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員-8, 9, 11, 12 生徒-2, 4, 5, 7、保護者-3, 5, 7、地域-3, 4, 5, 6, 8)

| | |
|-----|--|
| 取組 | <p>① 全校集会での登下校時（バスの中のマナー含む）の集団生活でのルールやマナーを遵守させる指導のより一層の充実を図った。</p> <p>② 全校集会やクラスごとなどで、一人で悩んでいる生徒がいた場合の声かけなど、アンケート等を使い把握するとともに他者を思いやる意識といじめや差別を許さない意識を高めるために指導を行った。また各学年と連携し指導に取り組んだ。</p> |
| 成果 | <p>① 生徒設問5「南高校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている」への肯定的な評価は72.4%と評価を得ている。また平成27年度は、保護者の設問5「生活習慣や規範意識を身につけるための適切な指導が行われている」への肯定的な回答は67.8%に対し平成28年度は、72.9%と数字が上がった。地域の方から設問4「生徒は登下校の際のマナーが身につけている」への肯定的な回答が平成27年度は、42.1%と50%を下回る数字であったが、平成28年度は、57.1%と数字が上がった評価であった。</p> <p>② 生徒の設問2「学級で良好な人間関係を築いている」への肯定的な回答が89.5%、保護者の設問3「お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている」へは、肯定的な回答が89.5%と高い評価であった。</p> <p>③ 生徒の設問5「南高校は、いじめや差別を許さない環境作りに努めている」への肯定的な回答が72.4%であり平成27年度より少しではあるが、1.1%上がる結果となっている。</p> |
| 課題 | <p>① 地域の方からの設問4「生徒は登下校の際のマナーが身につけている」への回答が平成27年度と比べて15%向上した。しかしながら数値としては、50%台であるため、さらに地域の方々に信頼を得られるように指導を継続して行っていく。</p> <p>② バス利用生徒の、通学時における車内のマナーに課題が残っている。</p> <p>③ 数字上に表れずに困っている生徒に対し、教職員の細やかな観察眼とスクールカウンセラーや養護教諭、家庭との連携が、今後も課題である。</p> <p>④ 各学年とより一層の連携を図っていくことが課題である。</p> |
| 改善策 | <p>① 生活習慣やマナーの遵守などより身近な指導を徹底し、学校だけではなく、ご家庭や地域の方々の協力を得ることが本校の指導についての理解につながると思われるので、今後も、地域やご家庭と連携をとって指導をする。さらに、さまざまな機会を利用して、生徒への啓発活動を続けていき、委員会活動などを通じて生徒がお互いに意識をしていくような指導を行う。学校の教職員と家庭との連携を強化する。</p> <p>② 生徒の人権意識の向上に向けて、さらなる手段や効果的な方法を検討する。</p> |

平成 28 年度

学校評価アンケートのまとめ

| | |
|---------------|-------|
| 1. 生徒による学校評価 | 2 |
| 2. 生徒による授業評価 | 3-13 |
| 国語科 | 4 |
| 地歴公民科 | 5 |
| 数学科 | 6 |
| 理科 | 7 |
| 保健体育科 | 8 |
| 芸術科 | 9 |
| 英語科 | 10-11 |
| 家庭科 | 12 |
| 情報科 | 13 |
| 3. 保護者による学校評価 | 14 |
| 4. 地域による学校評価 | 15 |
| 5. 教職員による学校評価 | 16 |

1. 生徒による学校評価

| 項目 | No. | 評価指標 | そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない | そう思う ややそう思う | 27年度 |
|-----------|-----|---------------------------------------|------|--------|-----------|--------|----------------|------|
| | | | | | | | | |
| 教育活動等について | 1 | 希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている。 | 33% | 47% | 13% | 7% | 79.9% | 83% |
| | 2 | ホームルーム（学級）で良好な人間関係を築いている。 | 46% | 43% | 8% | 2% | 89.5% | 91% |
| | 3 | 生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。 | 31% | 47% | 16% | 6% | 77.5% | 66% |
| | 4 | 先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。 | 32% | 46% | 17% | 5% | 77.7% | 77% |
| | 5 | 学校はいじめや差別を許させない環境作りに努めている。 | 22% | 50% | 22% | 5% | 72.4% | 71% |
| | 6 | 進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している。 | 40% | 46% | 12% | 2% | 86.0% | 84% |
| | 7 | 学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。 | 27% | 52% | 18% | 3% | 78.6% | 76% |
| | 8 | 学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。 | 31% | 49% | 17% | 3% | 80.4% | 85% |
| 学校生活等について | 9 | 本校の生徒であることに誇りを感じている。 | 28% | 43% | 20% | 10% | 70.9% | 79% |
| | 10 | 学校の施設・設備面の教育環境が充実している。 | 55% | 37% | 6% | 2% | 92.3% | 93% |
| | 11 | 学校は生徒の個人情報を適切に管理している。 | 47% | 43% | 6% | 3% | 90.5% | 91% |
| | 12 | 災害時の校内の避難経路を把握している。 | 31% | 42% | 17% | 9% | 73.3% | 67% |
| | 13 | 学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。 | 25% | 49% | 19% | 7% | 74.5% | 77% |

| 1年 | | | | | | 2年 | | | | | | 3年 | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|----|------|-----|------|-----|-----|-----|----|------|-----|
| 学校評価 | ① | ② | ③ | ④ | 総数 | ①② | 学校評価 | ① | ② | ③ | ④ | 総数 | ①② | 学校評価 | ① | ② | ③ | ④ | 総数 | ①② |
| (1) | 34% | 42% | 18% | 6% | 100% | 76% | (1) | 38% | 45% | 11% | 6% | 100% | 83% | (1) | 36% | 50% | 8% | 6% | 100% | 86% |
| (2) | 51% | 38% | 10% | 2% | 100% | 88% | (2) | 44% | 48% | 7% | 2% | 100% | 92% | (2) | 61% | 33% | 6% | 0% | 100% | 94% |
| (3) | 31% | 49% | 15% | 5% | 100% | 80% | (3) | 35% | 45% | 16% | 4% | 100% | 80% | (3) | 28% | 50% | 17% | 6% | 100% | 78% |
| (4) | 25% | 46% | 21% | 8% | 100% | 71% | (4) | 38% | 45% | 14% | 3% | 100% | 82% | (4) | 44% | 44% | 8% | 3% | 100% | 89% |
| (5) | 21% | 45% | 26% | 8% | 100% | 66% | (5) | 23% | 52% | 23% | 2% | 100% | 75% | (5) | 22% | 67% | 11% | 0% | 100% | 89% |
| (6) | 36% | 46% | 16% | 2% | 100% | 82% | (6) | 49% | 39% | 10% | 2% | 100% | 88% | (6) | 56% | 39% | 3% | 3% | 100% | 94% |
| (7) | 27% | 48% | 23% | 2% | 100% | 75% | (7) | 32% | 52% | 14% | 2% | 100% | 84% | (7) | 36% | 58% | 6% | 0% | 100% | 94% |
| (8) | 30% | 46% | 19% | 4% | 100% | 76% | (8) | 30% | 54% | 14% | 3% | 100% | 84% | (8) | 42% | 44% | 14% | 0% | 100% | 86% |
| (9) | 26% | 41% | 25% | 8% | 100% | 67% | (9) | 28% | 47% | 19% | 6% | 100% | 75% | (9) | 36% | 47% | 8% | 8% | 100% | 83% |
| (10) | 55% | 37% | 6% | 2% | 100% | 93% | (10) | 51% | 38% | 9% | 2% | 100% | 89% | (10) | 58% | 36% | 6% | 0% | 100% | 94% |
| (11) | 52% | 37% | 7% | 4% | 100% | 89% | (11) | 46% | 46% | 6% | 2% | 100% | 92% | (11) | 50% | 39% | 11% | 0% | 100% | 89% |
| (12) | 38% | 37% | 15% | 10% | 100% | 75% | (12) | 30% | 47% | 17% | 6% | 100% | 77% | (12) | 25% | 47% | 22% | 6% | 100% | 72% |
| (13) | 29% | 45% | 20% | 6% | 100% | 74% | (13) | 20% | 53% | 22% | 6% | 100% | 72% | (13) | 39% | 47% | 8% | 6% | 100% | 86% |

2. 生徒による授業評価

質問項目

◎ 評価項目 1-自分自身について

- 1 予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。
- 2 授業で学習した内容はだいたい理解または習得できている。
- 3 主体的・積極的に授業に参加している。

◎ 評価項目 2-授業や先生について

- 4 生徒に学力を身につけさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。
- 5 学習の狙いがはっきりしていて、内容の組み立ても適切である。
- 6 板書、プリント、教材の使い方はわかりやすいですか。
- 7 生徒に公平に接し、理解しようとしていますか。
- 8 評価方法や評価規準についての説明は十分行われた。
- 9 授業の年間計画が説明され、授業もその内容に準じて行われている。
- 10 発問や説明が適切でわかりやすい。

※各教科・科目により学習の状況が異なっているので、複数の教科で、質問項目が異なります。

- 芸術科
- 1 授業に必要な用具を準備して意欲的に学習に取り組んでいる。
 - 4 生徒に芸術的な技能と完成を高めさせようと授業に熱心に取り組んでいる。

保健体育科の体育

- 1 授業に必要な用具の準備などをして意欲的に学習に取り組んでいる。
- 4 生徒に技術や体力を身につけさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。
- 6 削除し、他の項目を1つずつ繰り上げ、9問とした。

- 家庭科
- 1 授業に必要な用具を準備して意欲的に学習に取り組んでいる。
 - 3 主体的・積極的に取り組み、課題を提出できた。

国語科

| 1年 全体 | | | | | | | 2年 全体 | | | | | | | 3年 全体 | | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)×2) | | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)×2) | | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)×2) | |
| (1) | 10% | 39% | 38% | 13% | 100% | 49% | (1) | 8% | 34% | 37% | 21% | 100% | 43% | (1) | 29% | 41% | 16% | 14% | 100% | 70% |
| (2) | 33% | 51% | 12% | 4% | 100% | 84% | (2) | 25% | 47% | 24% | 4% | 100% | 72% | (2) | 31% | 44% | 17% | 9% | 100% | 75% |
| (3) | 19% | 50% | 27% | 4% | 100% | 69% | (3) | 23% | 51% | 20% | 6% | 100% | 74% | (3) | 28% | 50% | 17% | 5% | 100% | 78% |
| (4) | 34% | 42% | 20% | 5% | 100% | 75% | (4) | 25% | 52% | 19% | 5% | 100% | 76% | (4) | 32% | 49% | 13% | 7% | 100% | 81% |
| (5) | 59% | 34% | 4% | 2% | 100% | 94% | (5) | 47% | 40% | 9% | 3% | 100% | 87% | (5) | 45% | 37% | 11% | 6% | 100% | 83% |
| (6) | 45% | 44% | 9% | 2% | 100% | 89% | (6) | 36% | 45% | 16% | 4% | 100% | 81% | (6) | 39% | 43% | 11% | 7% | 100% | 83% |
| (7) | 46% | 35% | 16% | 3% | 100% | 81% | (7) | 34% | 45% | 16% | 5% | 100% | 80% | (7) | 37% | 41% | 15% | 7% | 100% | 78% |
| (8) | 47% | 40% | 9% | 4% | 100% | 87% | (8) | 37% | 46% | 13% | 4% | 100% | 83% | (8) | 39% | 41% | 12% | 8% | 100% | 80% |
| (9) | 62% | 26% | 8% | 4% | 100% | 88% | (9) | 45% | 41% | 9% | 5% | 100% | 86% | (9) | 36% | 40% | 14% | 9% | 100% | 76% |
| (10) | 59% | 29% | 9% | 3% | 100% | 89% | (10) | 51% | 38% | 9% | 2% | 100% | 89% | (10) | 46% | 44% | 6% | 3% | 100% | 91% |

(a) 取組

27年度に引き続き「知識の定着・わかる授業・主体的に考える授業」を目指すとともに、効果的な板書・自主制作教材やプリント等、授業への配慮と工夫を行った。教員間の情報交換や研修により、「より良い教育実践」を行うための努力を続けた。

(b) 成果

各科目について全体として、平成 27 年度に引き続き、高い評価を維持できているとともに改善が見られた。

(c) 課題

授業評価に比べて、生徒自身の自己評価が低いところが課題である。生徒の学習意欲や家庭学習の習慣について一層の向上を図ることが必要である。

(d) 改善策

授業の研究と工夫、教員間での情報交換等を定期的に行い、生徒の学習への関心・意欲を高める。基礎知識の一層の定着のために、家庭での学習習慣を身につけさせる。

地歴公民科

1年 全体

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 27% | 41% | 23% | 9% | 100% | 68% |
| (2) | 37% | 45% | 12% | 5% | 100% | 82% |
| (3) | 19% | 45% | 26% | 10% | 100% | 64% |
| (4) | 36% | 43% | 16% | 5% | 100% | 79% |
| (5) | 51% | 38% | 7% | 3% | 100% | 89% |
| (6) | 43% | 44% | 10% | 3% | 100% | 87% |
| (7) | 45% | 38% | 15% | 3% | 100% | 82% |
| (8) | 46% | 38% | 13% | 3% | 100% | 84% |
| (9) | 40% | 41% | 13% | 6% | 100% | 81% |
| (10) | 58% | 32% | 5% | 4% | 100% | 90% |

2年 全体

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 13% | 34% | 36% | 17% | 100% | 47% |
| (2) | 25% | 47% | 21% | 6% | 100% | 72% |
| (3) | 18% | 44% | 28% | 9% | 100% | 63% |
| (4) | 31% | 44% | 21% | 5% | 100% | 74% |
| (5) | 46% | 40% | 9% | 4% | 100% | 87% |
| (6) | 40% | 45% | 12% | 3% | 100% | 85% |
| (7) | 43% | 41% | 13% | 4% | 100% | 84% |
| (8) | 40% | 40% | 16% | 5% | 100% | 79% |
| (9) | 45% | 40% | 12% | 3% | 100% | 85% |
| (10) | 56% | 38% | 5% | 2% | 100% | 94% |

3年 全体

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 30% | 35% | 22% | 12% | 100% | 66% |
| (2) | 44% | 39% | 10% | 7% | 100% | 82% |
| (3) | 34% | 47% | 14% | 6% | 100% | 80% |
| (4) | 43% | 42% | 11% | 4% | 100% | 85% |
| (5) | 54% | 35% | 6% | 4% | 100% | 90% |
| (6) | 50% | 35% | 10% | 5% | 100% | 85% |
| (7) | 53% | 33% | 9% | 5% | 100% | 85% |
| (8) | 47% | 34% | 13% | 6% | 100% | 81% |
| (9) | 55% | 33% | 6% | 6% | 100% | 88% |
| (10) | 56% | 36% | 4% | 3% | 100% | 93% |

(a) 取組

生徒の関心意欲を高め、学習意欲を維持・向上させるために、生徒主体及び生徒自身の活動を重視する授業形態を模索してきた。また、板書やプリント類の工夫を行い、理解を促進する指導を重視してきた。教員相互の情報交換、授業研修を優先課題として実施した。

(b) 成果

1～3年の全必修科目について、分割が行われず 40 人での授業展開となっている。生徒達との討議や、グループワークなどの十分な時間確保が難しい所があり、どうしても講義形式の授業展開に終始しがちである。しかしながら、生徒達からの評価は低くないと認識している。限られた時間内ではあるが、生徒とのコミュニケーションの充実を図ってきたことより、自己の知識の拡大に意欲的に取り組む生徒が増加してきたと考える。1・2年次科目での基礎学力の定着、3年次科目での大学入試に対応できる学力の伸長ともに、成果が得られたと考える。

(c) 課題

生徒自身の教科・科目に対する取り組み方、その積極性に関しては、まだまだ不十分である。生徒の自主性・積極性育成へのアプローチが最大の課題である。生徒の能動的活動を引き出す授業展開の研究を次年度の課題として、教科全体で研修にのぞみたい。

(d) 改善策

アクティブ・ラーニングなど、生徒の能動的活動を引き出す授業形態を、教科として可能な限り取り入れていくが、大学受験に必要な学力や知識の定着を図ることも重要である。これらの両立を果たし、生徒にとって学習効果の高いより良い授業形態の研究に教科として取り組んでいく。そのためにも、教科内での情報交換や指導効果の共有を積極的に行っていくようにする。

数学科

| 1年 全体 | | | | | | | 2年 全体 | | | | | | | 3年 全体 | | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|------|--------|-------|-----|-----|-----|-----|------|--------|-------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) | | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) | | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
| (1) | 27% | 39% | 23% | 11% | 100% | 66% | (1) | 24% | 42% | 25% | 9% | 100% | 66% | (1) | 21% | 44% | 18% | 17% | 100% | 66% |
| (2) | 33% | 43% | 19% | 5% | 100% | 75% | (2) | 27% | 39% | 28% | 5% | 100% | 66% | (2) | 19% | 58% | 12% | 10% | 100% | 78% |
| (3) | 30% | 49% | 17% | 4% | 100% | 79% | (3) | 20% | 46% | 25% | 8% | 100% | 66% | (3) | 17% | 53% | 20% | 11% | 100% | 69% |
| (4) | 51% | 36% | 9% | 4% | 100% | 87% | (4) | 34% | 50% | 15% | 2% | 100% | 83% | (4) | 35% | 46% | 14% | 5% | 100% | 81% |
| (5) | 47% | 37% | 12% | 4% | 100% | 84% | (5) | 40% | 41% | 15% | 5% | 100% | 80% | (5) | 33% | 45% | 15% | 8% | 100% | 78% |
| (6) | 39% | 43% | 13% | 4% | 100% | 82% | (6) | 37% | 43% | 14% | 6% | 100% | 80% | (6) | 27% | 52% | 16% | 5% | 100% | 79% |
| (7) | 30% | 44% | 19% | 8% | 100% | 74% | (7) | 32% | 43% | 18% | 7% | 100% | 75% | (7) | 29% | 44% | 20% | 8% | 100% | 73% |
| (8) | 34% | 42% | 19% | 5% | 100% | 76% | (8) | 36% | 41% | 18% | 5% | 100% | 77% | (8) | 29% | 41% | 24% | 6% | 100% | 71% |
| (9) | 54% | 31% | 9% | 6% | 100% | 85% | (9) | 44% | 39% | 13% | 4% | 100% | 83% | (9) | 34% | 40% | 15% | 11% | 100% | 74% |
| (10) | 61% | 31% | 4% | 4% | 100% | 92% | (10) | 54% | 38% | 6% | 2% | 100% | 92% | (10) | 38% | 51% | 9% | 2% | 100% | 89% |

(a) 取組

- ・授業時間や学習分野が多い中、苦手意識をなるべく克服するために、短時間でも良いから家庭学習を行うよう指導した。
- ・第1学年では、高入生を2分割し基礎・基本の定着を目指した。
- ・第2学年では、今年の後半から「数学Ⅲ」が全員履修となったので、既に必要としない生徒や数学自体を苦手とする生徒が大きな負担とならないよう、クラス編成や内容の精選や指導順序などを配慮した。
- ・第3学年での「数学Ⅲ」は例年同様 微分・積分の学習を先行し、その他の分野をその後に取り扱うよう工夫した。
- ・第3学年での演習科目は、センター試験や個別入試対策の講座をそれぞれ設置し、生徒のレベルを考慮しつつ、教材選びや進度を工夫した。

(b) 成果

- ・第1学年高入生を2分割したことで、(希望による)レベルに合わせた授業展開ができた。
- ・第2学年では、2クラス3分割・1クラス2分割を実施し、きめ細かい指導を行った。
- ・第3学年では、生徒の希望・進度にあわせた指導が実現できた。

(c) 課題

- ・学年の課題としては、高入生の2分割の学習進度の違いの解消に課題がある。
- ・第2学年では、「数学B」の学習内容の理解に課題がある生徒にとっては、その後の「数学Ⅲ」の学習に関して、一層問題を残す状態である。
- ・第3学年では、「数学が苦手でも入試で必要」とする生徒が比較的多く、扱う問題がやさしめになりがちでバランスを取るのが難しい。

(d) 改善策

- ・基礎基本の定着は反復練習であり、家庭学習は欠かせない事を周知徹底し、理解させる。
- ・生徒一人ひとりとより多く接することにより、普段から気軽に質問に来られるような環境を作り、優しく時には厳しく指導する。

理科

1年 全体

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 11% | 39% | 35% | 16% | 100% | 50% |
| (2) | 26% | 45% | 22% | 7% | 100% | 71% |
| (3) | 24% | 47% | 23% | 6% | 100% | 71% |
| (4) | 30% | 46% | 19% | 6% | 100% | 76% |
| (5) | 45% | 40% | 12% | 3% | 100% | 85% |
| (6) | 41% | 39% | 15% | 5% | 100% | 80% |
| (7) | 36% | 40% | 16% | 8% | 100% | 76% |
| (8) | 44% | 38% | 13% | 6% | 100% | 82% |
| (9) | 44% | 35% | 14% | 7% | 100% | 79% |
| (10) | 59% | 30% | 8% | 3% | 100% | 88% |

2年 全体

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 20% | 45% | 29% | 7% | 100% | 65% |
| (2) | 29% | 47% | 22% | 2% | 100% | 75% |
| (3) | 20% | 51% | 24% | 5% | 100% | 71% |
| (4) | 29% | 50% | 19% | 2% | 100% | 78% |
| (5) | 43% | 43% | 11% | 3% | 100% | 86% |
| (6) | 35% | 50% | 12% | 3% | 100% | 85% |
| (7) | 36% | 44% | 16% | 4% | 100% | 80% |
| (8) | 41% | 39% | 16% | 3% | 100% | 81% |
| (9) | 42% | 43% | 11% | 4% | 100% | 85% |
| (10) | 45% | 40% | 10% | 5% | 100% | 85% |

3年 全体

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 33% | 49% | 11% | 8% | 100% | 82% |
| (2) | 35% | 53% | 7% | 4% | 100% | 88% |
| (3) | 27% | 53% | 14% | 5% | 100% | 81% |
| (4) | 44% | 41% | 10% | 6% | 100% | 85% |
| (5) | 46% | 42% | 10% | 2% | 100% | 89% |
| (6) | 42% | 51% | 5% | 2% | 100% | 93% |
| (7) | 37% | 46% | 14% | 2% | 100% | 84% |
| (8) | 47% | 36% | 14% | 3% | 100% | 83% |
| (9) | 51% | 41% | 6% | 3% | 100% | 91% |
| (10) | 47% | 48% | 2% | 3% | 100% | 95% |

(a) 取組

- ・課題に関して小テスト、休業中の課題・家庭学習及び課題の提出などを充実させた。
- ・追試や補習など、個別指導を行い、成績の向上に取り組んだ。
- ・教員のICT機器の活用をより推進し、授業中の活用が進んだ。
- ・アクティブ・ラーニングの取組を進めてきた。

(b) 成果

- ・2年生を中心に評価が昨年度よりやや向上したが、今後も向上するよう努力する。
- ・課題などの提出を増やしたことにより、生徒の予習・復習の取組が向上した。

(c) 課題

- ・生徒自身の評価に向上はみられたが、まだ低いことが課題である。
- ・生徒が家庭学習において、自ら意欲的に学習に取り組めるよう助言が必要である。
- ・生徒が授業中に使用できる機器の更なる充実が必要であり、計画的に整備していきたい。

(d) 改善策

- ・生徒が家庭学習に取り組めるよう、学習習慣の定着を継続して行う。
- ・生徒の意欲と学力に合った学習内容を検討し、改善していく。
- ・教員が専門科目を担当して、より良い授業を行えるように検討する。

保健体育科

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 32% | 37% | 20% | 12% | 100% | 68% |
| (2) | 46% | 42% | 10% | 3% | 100% | 87% |
| (3) | 30% | 53% | 15% | 2% | 100% | 83% |
| (4) | 56% | 35% | 6% | 2% | 100% | 91% |
| (5) | 62% | 30% | 7% | 2% | 100% | 91% |
| (6) | 47% | 42% | 8% | 3% | 100% | 89% |
| (7) | 46% | 44% | 7% | 2% | 100% | 90% |
| (8) | 40% | 45% | 11% | 4% | 100% | 85% |
| (9) | 54% | 32% | 9% | 5% | 100% | 86% |
| (10) | 56% | 32% | 9% | 3% | 100% | 88% |

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 27% | 37% | 23% | 13% | 100% | 65% |
| (2) | 39% | 41% | 17% | 3% | 100% | 80% |
| (3) | 27% | 49% | 20% | 4% | 100% | 76% |
| (4) | 47% | 40% | 11% | 3% | 100% | 86% |
| (5) | 49% | 41% | 9% | 2% | 100% | 90% |
| (6) | 41% | 47% | 10% | 2% | 100% | 88% |
| (7) | 37% | 48% | 13% | 2% | 100% | 85% |
| (8) | 38% | 47% | 12% | 3% | 100% | 85% |
| (9) | 44% | 41% | 11% | 4% | 100% | 85% |
| (10) | 44% | 45% | 9% | 3% | 100% | 89% |

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 59% | 34% | 5% | 2% | 100% | 92% |
| (2) | 67% | 28% | 4% | 1% | 100% | 94% |
| (3) | 57% | 38% | 4% | 1% | 100% | 95% |
| (4) | 69% | 27% | 2% | 2% | 100% | 95% |
| (5) | 64% | 32% | 4% | 0% | 100% | 96% |
| (6) | 47% | 36% | 11% | 6% | 100% | 83% |
| (7) | 61% | 35% | 4% | 0% | 100% | 96% |
| (8) | 56% | 33% | 9% | 2% | 100% | 89% |
| (9) | 68% | 29% | 3% | 0% | 100% | 97% |
| (10) | 63% | 30% | 7% | 0% | 100% | 93% |

保健

(a) 取組

- ・第1学年「現代社会と健康」について、各担当者が工夫を凝らしてプリントやパワーポイントを作成し授業展開をした。
- ・第2学年「環境と健康」について、プリントやパワーポイント、グループでテーマを設定するなどして、プレゼンテーションを活用したアクティブ・ラーニングを行った。

(b) 成果

- ・おおむね70%以上の評価を得られている。

(c) 課題

- ・「主体的積極的に授業に参加をしている」に関して「そう思う」「ややそう思う」と回答したのが2年生に関しては少し低い傾向が見られたことが課題である。
- ・より生徒が意欲的に取り組む授業展開を行っていくための教科として、教材研究の時間の確保が必要である。

(d) 改善策

- ・教材研究に努め研修会等にも積極的に参加し、よりよい授業づくりをする。

体育

(a) 取組

- ・第1学年 各種目の基礎・基本を学び定着させる。
- ・第2学年 団体種目、個人種目から自らの興味・関心で種目を選択し、より活発な活動を実現する。
- ・第3学年 種目選択制授業の実施を、生涯スポーツの意識向上に繋げる。

(b) 成果

- ・各学年とも授業に取り組む姿勢、学習内容の習得は、ほぼ良好である。

(c) 課題

- ・授業評価から「授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる」に関して「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合が高い評価であったが、「そう思う」のみだけの数字を見ると低い割合になるので、「そう思う」だけの割合を高くすることが課題である。

(d) 改善策

- ・学習内容ごとに、より細分化した段階的な技術指導を行う。
- ・中入生と高入生とのより円滑で体系的な学習の実現を図り、それぞれの学習内容の工夫などを不断に行う必要がある。

芸術科

| 1年 全体 | | | | | | | 2年 全体 | | | | | | | 3年 全体 | | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|------|--------|-------|-----|-----|-----|-----|------|--------|-------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| 芸術I | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) | 芸術II | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) | 芸術 | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
| (1) | 54% | 36% | 6% | 4% | 100% | 90% | (1) | 29% | 43% | 14% | 14% | 100% | 71% | (1) | 68% | 18% | 11% | 4% | 100% | 86% |
| (2) | 56% | 36% | 7% | 1% | 100% | 93% | (2) | 29% | 57% | 14% | 0% | 100% | 86% | (2) | 79% | 18% | 0% | 4% | 100% | 96% |
| (3) | 44% | 43% | 13% | 1% | 100% | 86% | (3) | 29% | 57% | 0% | 14% | 100% | 86% | (3) | 79% | 18% | 0% | 4% | 100% | 96% |
| (4) | 51% | 37% | 11% | 1% | 100% | 88% | (4) | 57% | 43% | 0% | 0% | 100% | 100% | (4) | 82% | 18% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (5) | 52% | 34% | 13% | 1% | 100% | 86% | (5) | 57% | 29% | 14% | 0% | 100% | 86% | (5) | 82% | 18% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (6) | 59% | 35% | 6% | 1% | 100% | 94% | (6) | 43% | 57% | 0% | 0% | 100% | 100% | (6) | 82% | 18% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (7) | 57% | 29% | 14% | 1% | 100% | 85% | (7) | 43% | 43% | 14% | 0% | 100% | 86% | (7) | 82% | 18% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (8) | 52% | 24% | 18% | 5% | 100% | 76% | (8) | 43% | 29% | 14% | 14% | 100% | 71% | (8) | 79% | 21% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (9) | 62% | 27% | 6% | 5% | 100% | 89% | (9) | 57% | 43% | 0% | 0% | 100% | 100% | (9) | 93% | 7% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (10) | 72% | 21% | 7% | 1% | 100% | 93% | (10) | 57% | 43% | 0% | 0% | 100% | 100% | (10) | 89% | 11% | 0% | 0% | 100% | 100% |

(a) 取組

- ・点数化されにくい技能や学習に関する到達度や意欲・関心の評価方法について、単元の目標や授業のねらいを丁寧に説明し、観点を明確に伝える工夫を行った。
- ・単元の終わりには振り返りシート等を書かせて、授業のねらいや観点を再確認できるようにした。

(b) 成果

- ・90パーセント近くの生徒が理解してくれていると判断できる。

(c) 課題

- ・受講者全員が芸術への関心意欲を高め、主体的積極的に授業に参加する内容にすることが課題である。

(d) 改善策

- ・授業の中で生徒との信頼関係を築くことが大切なので、関わりを持ちながら指導に当たれるように、授業の内容や教え方の工夫をより一層行うことが必要である。

英語科

| 1年 全体 | | | | | | | 2年 全体 | | | | | | | 3年 全体 | | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|------|--------|-------|-----|-----|-----|-----|------|--------|-------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) | | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) | | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
| (1) | 25% | 47% | 21% | 8% | 100% | 71% | (1) | 24% | 45% | 22% | 9% | 100% | 69% | (1) | 29% | 42% | 19% | 10% | 100% | 71% |
| (2) | 37% | 47% | 13% | 3% | 100% | 84% | (2) | 35% | 45% | 17% | 2% | 100% | 81% | (2) | 33% | 49% | 11% | 8% | 100% | 82% |
| (3) | 22% | 47% | 27% | 5% | 100% | 68% | (3) | 23% | 47% | 23% | 7% | 100% | 70% | (3) | 30% | 45% | 16% | 8% | 100% | 75% |
| (4) | 40% | 45% | 12% | 3% | 100% | 85% | (4) | 37% | 46% | 15% | 2% | 100% | 84% | (4) | 49% | 42% | 4% | 6% | 100% | 91% |
| (5) | 56% | 36% | 6% | 2% | 100% | 92% | (5) | 55% | 33% | 10% | 2% | 100% | 88% | (5) | 52% | 36% | 5% | 7% | 100% | 89% |
| (6) | 43% | 45% | 8% | 3% | 100% | 89% | (6) | 47% | 41% | 11% | 1% | 100% | 88% | (6) | 44% | 44% | 5% | 6% | 100% | 89% |
| (7) | 42% | 43% | 12% | 3% | 100% | 85% | (7) | 44% | 39% | 14% | 3% | 100% | 83% | (7) | 41% | 45% | 8% | 7% | 100% | 85% |
| (8) | 45% | 40% | 11% | 4% | 100% | 86% | (8) | 46% | 39% | 13% | 2% | 100% | 85% | (8) | 43% | 41% | 8% | 8% | 100% | 84% |
| (9) | 53% | 35% | 7% | 4% | 100% | 88% | (9) | 53% | 36% | 9% | 2% | 100% | 89% | (9) | 51% | 40% | 3% | 6% | 100% | 90% |
| (10) | 57% | 34% | 5% | 3% | 100% | 91% | (10) | 51% | 38% | 9% | 2% | 100% | 89% | (10) | 52% | 39% | 2% | 7% | 100% | 91% |

(a) 取組

1年生

- ・中学入学生のクラスでは、中学校での授業を踏襲した Round 制の授業を展開した。
- ・同じ題材を何度も繰り返し学ぶことで、より深い理解と定着を目指した。
- ・高入生に対しても、昨年度と同様に各レッスンでラウンド制の授業実践を行った。
- ・英語表現Ⅰでは、AET と共に学習者の主体的学習(アクティブ・ラーニング)をより一層行えるよう努めた。

2年生

- ・コミュニケーション英語(中学入学生)について、Round 制の授業実践を進めるだけでなく、3年生での学習や卒業後を意識した授業を展開した。
- ・英語表現Ⅱの文法クラスでは、教科書を通して文法項目を理解するだけでなく、その文法項目の知識が必要となる入試問題についても、選択問題から和文英訳まで、さまざまな出題形式で取り組んだ。
- ・英語表現Ⅱについて、AET と共に教科書全体を時事英語にも触れさせながら、生徒がアクティブ・ラーニングによる学びができるように努めた。さらに後半では、コミュニケーション英語Ⅱの教員と連携して、難関大の essay writing にも挑戦させるなど、3年生での学習を意識しながら将来にも役立つ内容を教えた。

3年生

- ・コミュニケーション英語Ⅲでは、前期は学んだリーディングスキルをもとに読解演習を行い、後期は入試問題を意識した実践的な長文読解問題に取り組んだ。
- ・後期後半は習慣づけるために5分間のリスニングアクティビティを毎回取り入れたり、長文、文法、その他苦手な問題種別に個人で取り組める時間も確保した。
- ・英語表現Ⅱでは既習の文法事項を基盤とし、空所補充、整序・正誤問題、英作文など大学入試問題の中でも文法、語法に着目した演習を行った。

(b) 成果

1年生

- ・中学入学生のクラスでは、レッスンの内容を自分の言葉で相手に説明する力を身につけることができた。
- ・高入生のクラスでも、レッスン全体の内容を様々な視点から読み進めることにより、内容の定着を高めることができた。
- ・英語表現Ⅰについて、授業外の英語発表の場で授業で学習したことが役立っているとの声が生徒からあり、実践的な英語力を身につけさせることができた。

2年生

- ・抽象度の高いトピックについて英語で理解し、考え、表現しようとする姿勢が培われた。
- ・英語表現Ⅱの文法クラスでは、今までインプットしてきた英文を体系的に理解できた。またライティングの際には、より正しい英語を使おうとする態度も養われ、場面に応じて英語を使い分けようとする姿勢が身についた。
- ・英語表現Ⅱについて、授業外の英語による発表の場でも授業内容が活かされており、実践的な英語力を身につけさせることができた。さらに、受験に必要な writing 力が、どの程度なのかを3年生になる前に生徒に意識させることで、一年後の目標を明確にさせることができた。

3年生

- ・大学入試を前に生徒の熱意や目的意識は高く、出席状況、参加姿勢はとて良かった。
- ・授業内で問題演習を重ねることにより、生徒の英語に対する理解・定着が増すとともに意欲が高まった。

(c) 課題

1年生

- ・中入生のクラスでは、高校レベルの語彙や文法を定着させることにもう少し努力が必要である。
- ・英語表現Ⅰについて、高入生も中入生とほぼ同じ内容で教えているが、授業の理解度に差が見られた。

2年生

- ・中入生の間で学力差が見受けられ、授業の理解度に差があった。
- ・英語表現Ⅱの文法クラスでは、文法項目を理解に留めず、活用する力に繋げるために、より多くの問題に触れる等の更なる練習が必要である。
- ・英語表現Ⅱについて、高入生については教材の難易度を調整しながら中入生と同じプレゼンテーション、paragraph writing 等の内容を教えたが、理解度に差があった。

3年生

- ・教科書学習から入試問題演習への移行をよりスムーズに行い、演習量を授業内で確保できると良い。

(d) 改善策

1年生

- ・中入生のクラスでは、文法や語彙の習得に焦点をあてる活動を行ったり、定期的な小テストなどを実施したりすることで、自宅学習の習慣づけを今後も継続して行う。
- ・高入生のクラスは、最終的に習熟度別のクラスに再編成し、苦手な生徒の多いクラスを少人数化することで個々に対応する機会を増やす。
- ・英語表現Ⅰについて、高入生のクラスについては学習進度をよりきめ細かに調整し、加えてAETによる英語での発言のフォローを日本人教員がより多めにするなど、理解度を高められるように心掛けた。

2年生

- ・学力段階別の補習や講習を実施することで、生徒の個に応じた指導に努めた。
- ・英語表現Ⅱの文法クラスでは、より多くの課題を生徒に与え、授業外の時間にも学習する習慣を身につかせ更なる文法項目の定着に繋げる。その際、課題の内容をより精選していく必要がある。
- ・英語表現Ⅱについて、高入生については教材の難易度を調整するとともに、進度にも配慮し、AETの発言のフォローを日本人教員が多めにするなど、理解を深められるようにした。

3年生

- ・実践的な問題演習をより早い時期から行くと、生徒個人の英文読解スピードの向上に繋げる。

家庭科

2年 全体

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 30% | 39% | 22% | 10% | 100% | 69% |
| (2) | 41% | 43% | 13% | 3% | 100% | 84% |
| (3) | 23% | 56% | 16% | 4% | 100% | 79% |
| (4) | 48% | 42% | 9% | 1% | 100% | 90% |
| (5) | 47% | 44% | 7% | 2% | 100% | 91% |
| (6) | 47% | 45% | 6% | 2% | 100% | 92% |
| (7) | 46% | 43% | 10% | 2% | 100% | 89% |
| (8) | 50% | 39% | 9% | 2% | 100% | 89% |
| (9) | 52% | 39% | 8% | 2% | 100% | 91% |
| (10) | 53% | 41% | 4% | 3% | 100% | 93% |

3年 全体

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 67% | 33% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (2) | 67% | 27% | 7% | 0% | 100% | 93% |
| (3) | 53% | 47% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (4) | 60% | 40% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (5) | 69% | 31% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (6) | 60% | 40% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (7) | 67% | 33% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (8) | 67% | 33% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (9) | 73% | 27% | 0% | 0% | 100% | 100% |
| (10) | 67% | 33% | 0% | 0% | 100% | 100% |

(a) 取組

中入生と高入生が一緒になって初めての家庭基礎の授業を行う学年である。今までの授業展開を変えて、最初に経済の学習から始め、自身の生涯における経済活動の展望を行い、生活の自立、家族・社会との共生の順番で行った。自分自身の生活課題や社会の課題などについて興味関心が高められるように、教員3人で授業内容や教えるポイント、実習内容などを工夫しながら指導を行った。生徒が積極的に活動できる、ロールプレイやグループワークや実習なども増やし、一人ひとりの理解が深められる手だてを実行し、日常生活に役立つ家庭基礎を目指し取り組んだ。

(b) 成果

昨年と比べて(1)と(2)設問内容が変わり、より家庭科の学習目標に添えたものになったので、評価があがった。しかし(1)の、授業に必要な用具を準備して意欲的に学習に取り組んでいるか、の質問に対して69%と評価が低い。その他の項目はすべて昨年度以上で、平成28年度の取組が評価された。

(c) 課題

1組から4組と5組の評価で(3)の授業で学習した内容は大体理解でき、身につけている。この質問で差が出ている理由として考えられることは、同一内容、同一実習、同一テストを実施するので、授業のスピードや内容の理解に課題があり、意欲的に取り組めないことが理解できない、身につけていないと感じる生徒が多いと理由と考える。これに伴い、クラス別での学習内容や、評価方法については今後の検討課題としたい。

(d) 改善策

- ・生徒が意欲的に取り組める授業方法の改善を図ること。
- ・生徒の学習の理解度をより高めるために、授業方法の改善と授業評価をどのようにするか検討したい。

情報科

1年 全体

| | (1) | (2) | (3) | (4) | 総数 | (1)(2) |
|------|-----|-----|-----|-----|------|--------|
| (1) | 27% | 33% | 27% | 12% | 100% | 61% |
| (2) | 23% | 40% | 30% | 7% | 100% | 63% |
| (3) | 14% | 42% | 34% | 10% | 100% | 56% |
| (4) | 26% | 42% | 24% | 8% | 100% | 68% |
| (5) | 25% | 45% | 24% | 6% | 100% | 70% |
| (6) | 29% | 48% | 17% | 6% | 100% | 77% |
| (7) | 24% | 41% | 27% | 7% | 100% | 65% |
| (8) | 30% | 36% | 25% | 9% | 100% | 66% |
| (9) | 27% | 32% | 29% | 12% | 100% | 58% |
| (10) | 43% | 33% | 17% | 7% | 100% | 76% |

(a) 取組

- ・教科全体の構成や目的を周知し、座学と実習の関連性について理解させた。
- ・eラーニングなどICTを積極的に活用し、個々の生徒が学習環境や習熟度に応じて予習復習など意欲的に取り組めるようにした。

(b) 成果

ICTを積極的に活用し、個々の生徒に学習環境や習熟度に応じて予習復習を行わせることができた。座学で身につけた知識を実技実習で活用することができ、学習のねらいに沿うことができた。

(c) 課題

- ・新しい教科書に向けて、教材を整え直す。
- ・予習復習など、自主的に学習活動に取り組む姿勢を定着させる必要がある。

(d) 改善策

教材を変更するとともに、個々の生徒が学習環境や習熟度に応じて予習復習など意欲的に取り組めるようにする。

3. 保護者による学校評価

| 項目 | No. | 評価指標 | そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない | わからない | そう思う ややそう思う | 27年度 |
|-----------|-----|--|------|--------|-----------|--------|-------|----------------|------|
| 教育活動等について | 1 | 進学重点校として、模擬テストや面談の充実など適切な取り組みをしている。 | 34% | 44% | 16% | 6% | 2% | 78.1% | 80% |
| | 2 | 南高校の教育課程は進路実現に適したものになっている | 22% | 47% | 21% | 10% | 5% | 68.9% | 75% |
| | 3 | お子さんはホームルーム（学級）で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。 | 53% | 36% | 8% | 2% | 2% | 89.5% | 89% |
| | 4 | 学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。 | 48% | 38% | 11% | 4% | 2% | 85.4% | 86% |
| | 5 | 生活習慣や規範意識を身につけるための適切な指導が行われている。 | 23% | 50% | 23% | 4% | 8% | 72.9% | 68% |
| 学校生活等について | 6 | 希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている。 | 28% | 50% | 15% | 6% | 4% | 78.8% | 77% |
| | 7 | 生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。 | 26% | 51% | 20% | 3% | 18% | 77.4% | 62% |
| | 8 | 校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。 | 36% | 54% | 8% | 2% | 6% | 89.6% | 85% |
| | 9 | 各種会計報告が適切に行われている。 | 58% | 37% | 4% | 1% | 8% | 94.8% | 90% |
| | 10 | 学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。 | 21% | 47% | 25% | 7% | 6% | 67.8% | 75% |

| | 1年 | | | | | | 2年 | | | | | | 3年 | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 総数 | ①② | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 総数 | ①② | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 総数 | ①② |
| (1) | 33% | 38% | 21% | 8% | 2% | 100% | 71% | 40% | 46% | 11% | 3% | 1% | 100% | 86% | 22% | 54% | 17% | 7% | 2% | 100% | 76% |
| (2) | 19% | 38% | 28% | 14% | 4% | 100% | 57% | 26% | 54% | 15% | 5% | 4% | 100% | 80% | 18% | 51% | 18% | 14% | 7% | 100% | 68% |
| (3) | 51% | 40% | 6% | 2% | 3% | 100% | 92% | 56% | 33% | 10% | 2% | 1% | 100% | 88% | 51% | 37% | 10% | 2% | 3% | 100% | 88% |
| (4) | 43% | 41% | 13% | 3% | 1% | 100% | 84% | 52% | 34% | 10% | 4% | 1% | 100% | 86% | 48% | 38% | 10% | 3% | 5% | 100% | 86% |
| (5) | 22% | 43% | 30% | 5% | 8% | 100% | 65% | 23% | 56% | 19% | 2% | 6% | 100% | 79% | 26% | 50% | 19% | 6% | 12% | 100% | 76% |
| (6) | 22% | 44% | 24% | 9% | 5% | 100% | 67% | 31% | 58% | 7% | 3% | 1% | 100% | 90% | 36% | 42% | 13% | 9% | 10% | 100% | 78% |
| (7) | 26% | 52% | 22% | 1% | 17% | 100% | 78% | 28% | 53% | 16% | 2% | 16% | 100% | 82% | 20% | 46% | 24% | 9% | 12% | 100% | 67% |
| (8) | 37% | 54% | 7% | 3% | 5% | 100% | 90% | 36% | 53% | 10% | 1% | 5% | 100% | 89% | 32% | 57% | 8% | 4% | 10% | 100% | 89% |
| (9) | 61% | 31% | 7% | 1% | 4% | 100% | 92% | 59% | 38% | 2% | 1% | 7% | 100% | 97% | 47% | 49% | 2% | 2% | 17% | 100% | 96% |
| (10) | 20% | 40% | 31% | 8% | 6% | 100% | 60% | 21% | 50% | 23% | 6% | 0.05 | 100% | 71% | 25% | 53% | 16% | 7% | 7% | 100% | 77% |

4. 地域による学校評価

| 項目 | No. | 評価指標(例) | そう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | そう思わない | わからない | そう思う ややそう思う | 27年度 |
|-------|-----|---|------|--------|-----------|--------|-------|----------------|------|
| 教育活動 | 1 | 学校は地域の人材や施設を教育活動に活かしている。 | 14% | 32% | 14% | 5% | 36% | 45.5% | 42% |
| | 2 | 学校は文化祭等の学校行事を通して、地域から信頼される学校を目指している。 | 32% | 32% | 5% | 5% | 26% | 63.2% | 70% |
| 生徒の様子 | 3 | 学校生活が楽しそうで、生き生きとしている様子の生徒が多く見られる。 | 14% | 41% | 18% | 5% | 23% | 54.5% | 68% |
| | 4 | 生徒は登下校の際のマナーが身に付いている。 | 10% | 48% | 19% | 19% | 5% | 57.1% | 42% |
| | 5 | 生徒は近隣に迷惑にならないような行動を心がけている。 | 15% | 35% | 15% | 15% | 20% | 50.0% | 46% |
| 地域貢献等 | 6 | 学校は地域の活動や行事によく協力している。 | 13% | 26% | 26% | 4% | 30% | 39.1% | 41% |
| | 7 | 学校は校舎・グラウンド等の近隣に接している所も清掃し、環境美化に努めている。 | 8% | 28% | 12% | 4% | 48% | 36.0% | 36% |
| | 8 | 生徒は社会貢献（地域清掃や地域のボランティア等の取組）の活動により地域に貢献している。 | 10% | 15% | 20% | 10% | 45% | 25.0% | 24% |
| | 9 | 学校は地域に向けて学校情報の提供をしている。 | 8% | 31% | 19% | 4% | 39% | 38.5% | 43% |

5. 教職員による学校評価

| No | 大分類 | 評価項目 | 観点 | 評価指標 | 十分に 実現で きている | おおむ ね実現 できて いる | あまり 実現で きてい ない | 全く実 現でき ていな い | 判断で きない | 十分に、おおむ ね実現できてい る | 27年度 |
|----|------|--------------------------------|--|---|--------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------|------------|-------------------------|------|
| 1 | 教育活動 | 第2期横浜市教育振興基本計画 | | 「魅力ある高校教育の推進」に向けて学校全体として取り組んでいる。 | 13% | 52% | 20% | 2% | 14% | 64.3% | 63% |
| 2 | | 教育課程 | 編成 | 学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。 | 9% | 61% | 20% | 2% | 9% | 69.6% | 79% |
| 3 | | | 取組 | 学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。 | 9% | 63% | 20% | 0% | 9% | 71.4% | 79% |
| 4 | | 教科指導 | 指導計画 | 学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。 | 13% | 62% | 20% | 0% | 5% | 74.5% | 78% |
| 5 | | | 取組 | 私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。 | 13% | 63% | 13% | 2% | 11% | 75.0% | 79% |
| 6 | | | 評価評定 | 観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。 | 9% | 61% | 14% | 9% | 7% | 69.6% | 70% |
| 7 | | 特別活動 部活動 | 取組 | 生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。 | 13% | 64% | 18% | 2% | 4% | 76.8% | 79% |
| 8 | | ホームルーム活動 | 生徒が人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送ることができるよう基礎的な生活集団の形成に資するホームルーム経営を行うことができている。 | 11% | 64% | 9% | 0% | 16% | 75.0% | 71% | |
| 9 | | 生徒指導 | 生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている。 | 11% | 61% | 23% | 2% | 4% | 71.4% | 76% | |
| 10 | | 進路指導 | 生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切な指導を行っている。 | 13% | 66% | 14% | 0% | 7% | 78.6% | 83% | |
| 11 | | 保健指導 | 学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。 | 23% | 63% | 11% | 0% | 4% | 85.7% | 84% | |
| 12 | 環境美化 | 資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。 | 14% | 55% | 20% | 2% | 9% | 69.6% | 83% | | |
| 13 | 学校経営 | 学校教育目標 | | 学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。 | 11% | 54% | 25% | 5% | 5% | 64.9% | 69% |
| 14 | | 学校経営方針 | | 学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。 | 5% | 56% | 30% | 4% | 5% | 61.4% | 71% |
| 15 | | 職員組織 (校務分掌も含む) | | 一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。 | 7% | 44% | 35% | 4% | 11% | 50.9% | 64% |
| 16 | | 学年経営 | | 各学年(年次)の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。 | 11% | 58% | 14% | 5% | 12% | 68.4% | 57% |
| 17 | | 職員会議等 | | 会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。 | 16% | 58% | 16% | 4% | 7% | 73.7% | 71% |
| 18 | | 研究・研修 | | 教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。 | 9% | 54% | 26% | 2% | 9% | 63.2% | 62% |
| 19 | | 学校経理 | 予算編成 | 予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。 | 23% | 56% | 12% | 0% | 9% | 78.9% | 76% |
| 20 | | | 会計報告 | 公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を果たしている。 | 25% | 58% | 5% | 2% | 11% | 82.5% | 77% |
| 21 | | 学校施設 設備 | | 教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。 | 14% | 60% | 23% | 4% | 0% | 73.7% | 74% |
| 22 | | 情報管理 | | 個人情報の管理が適切である。 | 19% | 65% | 9% | 2% | 5% | 84.2% | 82% |
| 23 | | 保護者・地 域等との連 携協力 | PTA活動 | P T A との連携・協力の推進が図られている。 | 25% | 67% | 5% | 0% | 4% | 91.2% | 86% |
| 24 | | | 地域等との 連携 協力 | 学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。 | 14% | 60% | 16% | 0% | 11% | 73.7% | 81% |
| 25 | | 危機管理 | 安全対策 | 学校安全計画に沿って適正に実施されている。 | 18% | 65% | 11% | 0% | 7% | 82.5% | 90% |
| 26 | | | 防災対策 | 学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。 | 18% | 67% | 11% | 2% | 4% | 84.2% | 87% |
| 27 | 情報公開 | | 募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動が適切に行われている。 | 25% | 58% | 12% | 2% | 4% | 82.5% | 92% | |

平成 28 年度

横浜市立高等学校
及び
南高等学校附属中学校

学校関係者評価書

対象校：横浜市立 南 高等学校

調査全体の日程

調査日：平成28年11月7日 ～ 平成29年3月31日

調査対象校：横浜市立 南 高等学校

調査チーム：横浜市立南高等学校・南高等学校附属中学校 学校運営協議会

| | |
|------------|------------------------|
| リーダー：高木 展郎 | (横浜国立大学 教育人間科学部 名誉教授) |
| 漆間 浩一 | (鎌倉女子大学 教育学部 教授) |
| 野木 秀子 | (神奈川工科大学客員教授 元横浜市教育委員) |
| 藤田 誠治 | (港南区連合町内会長連絡協議会 会長) |
| 柏木 昭一 | (桜台自治会 会長) |
| 大越 雅也 | (港南ロータリークラブ) |
| 小池 毅 | (横浜市立東永谷中学校 校長) |
| 落合 玲子 | (横浜市立下永谷小学校 校長) |
| 北崎 熙 | (後援会 会長) |
| 石川 直弘 | (同窓会 会長) |
| 柏 淳 | (南高等学校・附属中学校 PTA 会長) |
| 久保田 彩 | (南高等学校・附属中学校 PTA 副会長) |
| 三浦 昌彦 | (南高等学校 校長) |
| 磯部 修一 | (南高等学校附属中学校 校長) |
| 佐藤 真理子 | (南高等学校 校長代理) |

記録等担当者：清田 英美 (南高等学校附属中学校 副校長)

1 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

- ・平成27年度から始めたスーパーグローバルハイスクール(SGH)の取組が、軌道に乗り始めている。その基盤となる「総合的な学習の時間」を活用した教科横断型の探究学習(TRY&ACT)が、教育課程の中に、目的を持って定位していることが評価できる。
- ・また、上記と合わせて、横浜市教育委員会の海外大学進学支援プログラム(ATOP)の拠点校としての機能も果たしている。
- ・中高一貫教育は5年目を迎え、着実にその成果を出してきている。特に、教職員の意識が高まりはじめ、中高での話し合いがもたれるようになり、今後大いに期待される。

2 教育活動の状況

□進路指導の状況

- ・「特色ある高校づくり」に基づき、進路に関する情報提供も行われており、保護者からの肯定的な回答も78.8%の高い数値が認められ、信頼を得られている。
- ・また、生徒に対しての進路説明についても、肯定的な回答が86.0%と高い数値が出ており、生徒の進路に対する意識も高めることができている。

□特別活動・部活動に関する状況

- ・特別活動においては、ホームルームが中心となって、集団生活に対する生徒の人間関係の意識が肯定的であることが評価できる。また、生徒会活動が積極的に行われていることも評価できる。一方、特別活動を教育課程の中に明確に位置付け、日々のホームルーム活動の一層の充実が求められる。
- ・また、この項目に関して教育課程外の部活動を位置付けるのは、適切ではない。

3 学校経営の状況

□組織運営及び教職員研修の状況

- ・平成27年度からのスーパーグローバルハイスクール(SGH)の研究指定を受け、学校全体としての組織的取組が生まれていることを高く評価する。また、分掌と学年、教科とが連携を図り、生徒の自主的な活動を支援していることも評価できる。
- ・教員研修に関しては、経験の浅い教員の多い中、中高合同で公開授業研究会等を実施し、授業力の向上を目指していることは評価できる。そこで、次期学習指導要領の改訂に向けて、これまでの高校教育の授業のあり方の意識改革を図ることを期待する。
- ・また、組織運営は、変革期の学校として、常に見直していくことも重要である。

□学校に関する情報公開の状況

- ・学校のホームページの更新を行い、情報公開の準備を整えたことは、評価できる。学校に関する情報の取得は、今日HPでの広報活動等が一番求められるところではある。しかし、学校に関する情報公開は、ホームページのみではなく、さまざまな媒体を使用して、日常的に行う必要もある。今後期待したい。

【 総評 】

- ・南高校附属中学校が設置されてから5年が経過した。この間、さまざまな試行錯誤の基に、高等学校改革を進めてきたことは評価できる。また、スーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定研究により、授業改善も図られ始めている。この様な状況は、これまでの高校教育の改善の視点となるので、これからの時代が求める学校への転換の大きなチャンスでもある。このチャンスの逃すことなく、時代が求める学校づくりのより一層の充実を期待する。